（中間Ｃ）

評価委員会総合評価

研究課題名：衛星データの利用技術に関する研究
評価委員会
　　委員長：加納裕二
　　委　員：韮澤　浩、露木　義、鬼頭昭雄、中村誠臣、上野　充、三上正男、
　　小林隆久、横田　崇、蒲地政文、緑川　貴、高橋　宙
評価年月日：平成２４年３月１３日

１．総合評価

（１）継続の可否	☑　継続	□　中止
（２）修正の必要の有無	□　修正の必要あり	☑　修正の必要なし

２．総合所見

放射伝達モデルや赤外海面射出率モデルの開発・改良、全球大気データ同化の高度化、非球形粒子の複雑形状を考慮した放射伝達モデルの開発など、数値モデルの高度化に寄与する基礎研究として成果が着実にあがっている。気象衛星センターにおける海面温度推定アルゴリズムの改良に組み込まれ、散乱モデルの開発は他の多くの研究課題にも活用されている。赤外海面射出率について開発したアルゴリズムは、学術面のみならず実用面での大きな波及が期待できる。副課題１は、その実用性の高さから重点研究に移行したものであり、研究は総じて順調に進捗していると評価する。

当初の計画における副課題２の部分が基礎研究として残され、小規模になったが、次期静止気象衛星の高度利用を念頭に、本庁や気象衛星センター、関連する研究課題のメンバーと連携して研究を進めてもらいたい。また、国内外の査読誌への積極的な論文投稿を心がけるなどして、成果のアピールに努めてもらいたい。